

# 会 議 録

会議の名称	第3回茨木市地域エネルギービジョン策定委員会
開催日時	平成22年11月17日(水) 午後3時開会 ・ 午後5時15分閉会
開催場所	茨木市役所 南館3階防災会議室
委員長	玉井 昌宏
出席者	磯崎 強志、今堀 洋子、大石 ひとみ、加藤 浩幸、兼森 軍二、 黒川 裕之、鈴木 眞由美、玉井 昌宏、西島 貞夫、藤田 紫、 村瀬 径介、山口 容平 (12人)
欠席者	なし (0人)
オブザーバー	武田 美奈子 (1人)
傍聴人	7人
事務局	島本環境政策課長、松本環境政策課長代理兼政策係長、井澤職員、 畑中第2計画部長、中川研究員、井筒客員研究員(株)地域計画建築 研究所大阪事務所) (6人)
議題(案件)	1 議題 (1) 茨木市地域エネルギービジョン素案について 2 その他 (1) 第4回策定委員会の開催日時について
配布資料	1 茨木市地域エネルギービジョン 策定委員会資料 2 茨木市地域エネルギービジョン(素案)

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	開会
	1 議事
	(1) 茨木市地域エネルギービジョン素案について
	3章と4章部分を事務局より説明
	・ 3章 変更点
	家庭部門におけるエネルギー消費量追加について説明
	・ 4章 変更点
	温度差エネルギーが利用可能量変更
	風力エネルギーの6 m/sは高さ30mから50mに変更して試算
	・ 質疑応答
委員 長	地域特性が、エネルギービジョンにどうつながるか？
事 務 局	1つはP. 10。人口は全国では減っているが、茨木市は増えている。エネルギー消費が増える予測になるので1つの視点になる。P. 19で土地利用として森林が4割を占めているのも1つの特徴だと考える。
委員 長	P. 10では人口が増加している。市として人口増加は悪くないが、エネルギー消費の伸びについてどう考えるか。総量を抑えるようにどうできるのか。
事 務 局	来年度の実行計画で、どちらで行くのかは議論したい。二酸化炭素は総量になるが、どう設定するのかはせめぎ合いになるだろう。
F 委 員	P. 2に位置づけを示していただいている。右側に位置づけがあり、環境基本計画につながっている。P. 3では、エネルギービジョンの下に実行計画という位置づけになっている。どちらが正しいか。どちらを重要視するのか。P. 29についての新エネルギー等の定義は、新エネルギー法が改定されているので、最新の情報に修正をお願いしたい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	P. 2 に記載しているのが基本的な位置づけである。来年度、実行計画策定に向けて、実行計画を考えて行く中で、エネルギービジョンをどう位置付けるのかについては議論していく。
F 委員	市民が誤解しないように、市として示していただきたい。
A 委員	電力のエネルギー消費量換算は、一次か二次か。
事務局	二次換算値を用いている。
F 委員	その旨を明記していただいた方がよい。
C 委員	風力について、P.30に「本文記載」とあるが、どこか。
事務局	資料編内のP.89に記載している。
委員長	風況が良くなってきたということか。
事務局	良くなってきたわけではなく、風車の高さを30mから50mに上げて見てみたところ、風況が6m/sを超えている地点が増えたということである。最近の風車は大きくなっているの、高さが50mというのは妥当な高さであると考え。
K 委員	P.10で人口と世帯数は増えているが、市としての見通しはどうか。彩都など開発が進んでいるが、今後も人口増加に向けての見通しはどうか。P.26にあるように、伸び率は茨木市の方が大きく、対策が必要であると考えられるのではないかと。注釈として書かないと、これでは茨木市は良い、ということになる。誤解のないような表現としていただきたい。1点目について教えてほしい。
事務局	市独自では、伸びて行くかどうかについては判断しづらいので、今年の国勢調査の結果を見て、どういう風になっていくか。人口推計が他の機関からも出ているので、そこで見て行きたい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
F 委 員	来年度の実行計画では必ず必要だが、エネルギービジョンでどうするかは難しいところである。
委 員 長	2点目の、一人当たりエネルギー消費量についてはいかがか。
A 委 員	単身世帯が多いと、一人当たりエネルギー消費量が多くなるので、そういう差なのだろうか。
H 委 員	P. 6で雨水利用があるが、新エネルギーや省エネルギーとどう関係があるのか。
事 務 局	省エネルギーにつながっている。
F 委 員	P. 6表中、コジェネレーションシステムは導入した当時は新エネルギーだが、今は違う。正しい表現に修正していただきたい。
K 委 員	表の下に注釈を入れ、誤解のないような表現にしてはどうか。
委 員 長	屋上緑化は、省エネルギーにつながるのか。
A 委 員	一概に効果があるというのは難しい。一番上の階に対しては効くのだが、全ての階層に効果があるわけではないので、効果を算定するのは難しい。
G 委 員	P. 68に基本方針が急に出てくるが、なぜか。
事 務 局	その部分については、後ほど説明させていただく。方針に向けて説明できるような情報が詰まっているかどうかも議論のポイントになってくるので、その点についてもご意見いただければと思う。
I 委 員	茨木市の一人当たりエネルギー消費量を大阪府と比べているが、P. 11は国と茨木市との比較になっている。府との比較も載せていただきたい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	ご指摘のとおりなので、府の値を掲載する。
K 委 員	大阪府の中で、茨木市の位置づけはどうなのか。一番良いのかも知れない。
I 委 員	マンションやワンルームは、一人当たりのエネルギー消費量が大きくなる可能性は無いのか。
A 委 員	集まって住めば、集合住宅は冷暖房によるエネルギー消費量は小さくなる。単身世帯がなぜ多いかと言えば、冷蔵庫などの必ずある機器が一人あたり一台となるため、一人当たりのエネルギー消費量は大きくなる。大阪府と茨木市の一人当たりのエネルギー消費量の違いの要因について特定するのは、難しいと思うが、出せるか。
事 務 局	特徴ごとの原単位は、統計的には微妙だが、出すべく努力している。
委 員 長	議論するには、データが少ない。
C 委 員	P.24だが、国との比較になっている。統一してはどうか。
事 務 局	大阪府に統一する。
A 委 員	新エネルギーについての利用可能量は出ているが、省エネルギーは出していないが、どうか。
事 務 局	省エネルギーの削減可能量については、後ほどP.78で説明する。
	アンケートについて、事務局より説明
	・特徴的な結果について説明
	・質疑応答

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員 長	結果を見ながら、あとのビジョンにつながるような議論をしましょう。
J 委 員	「一緒に住んでいる方」というのは、どういうことか。
事 務 局	エネルギー消費量の分析に使用するために設定した設問である。「次に挙げる方はいらっしゃいますか?」という問いに対し、夫婦のみの場合等は「いずれもない」という回答になる。いわゆる在宅時間を分析する上で、家での住まい方を調査するために問うた。
F 委 員	P.59だが、ヒートポンプ式空調の導入で9社しか入れていないのはなぜか。言葉が分からないのではないか。市民は、ヤル気があるが、どうしてよいのかはわかりにくいので、行政等がいかに誘導するかが重要である。「イニシャルは高いが、トータルでは安い」とか、エコジョーズやエコキュートなどを紹介することが重要ではないか。うちエコ診断は51%がやりたくないと回答しているが、なぜかということも考えて行く必要がある。
K 委 員	頭ではわかっても、そのために行動するのが、面倒なのではないか。
F 委 員	診断した結果が、「機器を入れ替えなさい」ということになる、お金が無いということになるだろう、という話だと思う。
委 員 長	居住地区の結果が出ている。交通の施策につながるのかもしれないが、このままでは情報が少なく分からない。見通しはどうか。郊外の住人がどれほどマイカーを使っているのか、について分からないければ、議論できないのではないか。
事 務 局	今後、住所と交通部分についてクロス集計をしていく。例えば彩都などは民生家庭と運輸部門が同じくらいの割合である。運輸部門の対策が必要であり、これから詰めていく。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員 長	市として、公共交通に関する環境対策をどのように考えていくのか。方針には反映されていないが、施策とのすり合わせをどう考えていくのか、についてどういう話になるのか。例えば道路整備や、バスの整備はどうか。
事 務 局	来年度の実行計画の中で、市の都市計画、交通施策を考慮しながら策定するが、エネルギービジョンでは様々な部門でのエネルギー削減量を出しているの、そこまでは追求しない。分かりやすのがバスだと思う。採算性の問題などあるが、触れづらいこともあるので、事務局で検討したい。
委員 長	省エネルギーには入らないということか。
事 務 局	入れづらい内容である。
I 委 員	P.58で表されている目標設定は、どういう意味か。
事 務 局	それぞれ基準年度、目標年度、削減率を聞いている。わかるように修正する。
I 委 員	事業者は、地域別等で分析は行わないのか。
事 務 局	事業者に関しては、業種と規模が重要だと考えている。
C 委 員	市民アンケートで減らす努力について聞かれているが、9割の方が努力されていると掲載すると、これ以上次につながらないのではないか。やはり、もっと啓発すべきだと思うが、どうか。
事 務 局	省エネルギーについてどういうことをしているか、という詳細は聞いていないが、啓発としてどういうものをしていくかは必要だと考える。こまめな節電はしているが、空調や給湯で大きく消費していることもあり、バランスについては啓発していきたい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
B 委 員	20代が3%というのは残念。この3%をいかに増やしていくかは大切。産業よりも家庭の需要の方が高いというイメージがある。自由記述をみると、単純な質問だけでなく、今後の展開に参考となる記述もある。質問されている方もおられるので、これらに対して何らかの形で答えていったほうが良いのではないかと。アンケートの比率については、6割あって高いので、まあまあかなと思う。
事 務 局	自由記述は今後、分類し、整理したいと考えている。
委 員 長	基本方針やプロジェクトを見る際に、アンケートの中でどこを見たらよいのか、教えてほしい。
事 務 局	家庭部門については、P.40下図、P.41のうちエコ診断についてが、どう普及啓発をしていくのか、についてのバックグラウンドになるのではないかと。P.42～44は自然エネルギーについてであり、一定の興味と負担があると考えられるが、色々な取り組みにつながるのではないかと。交通は、P.46で買い替え等について、電気自動車6%、ハイブリッド41%と高い値だと考える。事業所については、産業部門がそれなりに大きい。P.66で自然エネルギーについては、興味がある。市民同様に、CSRを含めてみんなでやっていってはどうか。さらにマイカー通勤について。削減したいという背景は、経済性とリンクしている。駐車場代を減らしたいなど、可能性がありそうだ。これらが、後ろの重点プロジェクトにつながっていくのだと考える。
	基本方針・重点プロジェクトについて事務局より説明
	・ 4つの基本方針について
	・ 7つの重点プロジェクトについて
	・ 質疑応答
委 員 長	今後の日程はどのような予定か。



議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	平成23年2月策定となるので、今回ご意見をいただき、12月15日から来年1月11日の日程でパブリックコメントを実施予定である。パブリックコメントでいただいた意見と委員からの意見によって、最終的に決めていく。
委員長	パブリックコメント募集まで、会議は今日しかないのか。
F 委員	このビジョンは目標値を定める必要はあるのか。大きな方向性だけでも良いのか。380TJとあるが、ここで軽々に決めてよいのだろうか。ビジョンなので、どの程度まで書いたらよいのか。今日、この数字を決めるのはなかなか難しい。プロジェクトの内容については、どれも良いのではと思う。
事務局	数値目標までは必要ではないが、何をするかの目標は必要である。
F 委員	今日数字を決める、というのはいかがなものか。省エネルギーや再生可能エネルギーを入れるかというのは必要だが。
委員長	風力はいけるかもしれない、という話もあったが、重点プロジェクトには記載されていない。また、市の計画となるので、文章表現については精査し、格調高い文章にしていきたい。
C 委員	近隣都市は既にビジョンを策定している。一番後発組なので独自性が必要ではないか。北摂の近隣地域は、地域特性は似ていると思うが、茨木市として特徴が出るようなものにしてはどうか。
F 委員	380TJは、どれほど削減することになるのか。
事務局	現状のエネルギー消費量と比較すると、5年間で2%に相当する。時間と分野は、ほんの一部である。今回は、打つべき対策の重点を記載するという形で提案している。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
F 委 員	実行計画にリンクしていくということならば、二酸化炭素での表現の方が分かりやすいのではないかと。実行計画に流れて行くならば、二酸化炭素の方がよい。
A 委 員	5年間の積算数値というのは分かりづらい。1年にしてはどうか。
F 委 員	書いてあることは正しいが、前のデータとの論理的なつながりについて議論したらよいのでは。
委 員 長	基本方針はこれで良いが、具体的なプロジェクトはこれでよいのかと思う。
J 委 員	削減目標値を決めているのであれば、一番インパクトがあるものから先に書くなどはどうか。現段階では、プロジェクト7の310TJが大半を占めている。バランスをもう少し取るとか、何か他のプロジェクトで、もうちょっと削減できるものもあるのではないかと考える。そして、削減効果の大きいものから並べるといえるのだろうか。
委 員 長	啓発も重要だが、無責任には言えないが、風力を入れてはどうか。
J 委 員	コミュニティバスというのもマイカー通勤抑制の施策として考えられるのではないかと。他の都市でもよくやられていることだし、公共交通については事業者から期待されているアンケートの回答が出ている。
E 委 員	コミュニティバスの案があるという話を聞いた。阪急の話があるとか。福祉関係かもしれないが、耳にした。
H 委 員	今、実際行われている施策に基づいて削減目標値を提示したように見える。国の施策で2020年に25%削減など大きな目標があって、それを達成するような、国の施策ともあうような野心的なものにしてはどうか、ということも思った。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
A 委 員	<p>実質的な削減量を狙うということと、次の10年間で狙うための施策というのがある。重点プロジェクト4は、実質的な削減量は少ないが、次の10年間で狙ったプロジェクトではないか。長期的ビジョンとして切り分けて掲載するというとも考えられる。</p>
H 委 員	<p>近距離しか走れない電気自動車は、この5年間は市民には普及しにくいのでは。毎日の走行距離が分かっている事業所なら導入しやすい。電気自動車・プラグインハイブリッド自動車の普及は、もっと先を見据えてやっていかないとだめだと思う。</p>
B 委 員	<p>取り入れるには、取り入れる側のメリットがないと分からない。お金をかけてやる人は、なかなかいない。メリットが何なのか、について記載してはどうか。太陽光発電は、初期はあまりいなかったが、補助金が増えてきて利用者も増えてきた。ハイブリッド車もエコカー減税で負担が減って、導入が増えてきた。取り入れる側のメリットが無ければ厳しい。メリットがあるような策を考えた方がよい。</p>
A 委 員	<p>今の関連でいくと、二酸化炭素削減と連携できそうな交通などの他部署と連携できるところを洗い出す、メリットを洗い出す、ということも1つできるのではないか。</p>
F 委 員	<p>メリットだけで、2050年に80%減らすことはできない。茨木市民以上に、地球市民という認識が必要である。ただし、初期は経済性メリットで滑り出すことも大切。市も非常に難しいところだと思う。</p>
A 委 員	<p>技術が普及するためには、先に費用負担をしてもいいという人が必要である。初期の段階は、興味を持っている人たちでスタートして、徐々に広がっていくというのがよい。</p>
F 委 員	<p>省エネルギー大国の日本が、今後さらなる省エネルギーを進めていくのは難しい。この状況では、減らすのは1つ1つ高い。</p>



議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委 員 長	市民の目標値を持つことは大切である。何%と言っても分かりにくい。自分の家庭でどれくらい使っているのか、世帯数別で標準的なものを示してはどうか。
K 委 員	市民は量が減っているか増えているかを、意識している人は少ない。
D 委 員	電気、ガスは、オール電化にするとガスは減るが電気が増えるなど、量を提示するのはなかなか難しいことがある。
E 委 員	光熱費だけで比べ合う、ということにならないか心配である。
I 委 員	現在、ガスの使用量は“マイ大阪ガス”に登録していただくことによって、グラフで分かるのだが、そのアクセス量を調べたところ、今回の調査の影響もあって、茨木市からのアクセスが他市より多かった。茨木市の方は、ガスについて他地域より関心が高いことが分かった。数値が上がると意識付けができるので、データは事務局に提出させていただく。
J 委 員	先端的な提案になったらよいと思う。参考になるのは、イギリス・トットネスで、市民が2030年に向けたエネルギー削減行動計画という本が出ている。市民がやっている世界最先端であるので紹介したい。
I 委 員	方針とプロジェクトは、体系立てた方がよいと思う。コミュニティサイクルとマイカー通勤抑制は比較的近いのではないだろうか。
委 員 長	方針2と重点プロジェクト1が同じように見えるか。
事 務 局	タイトルは修正する。
委 員 長	日程についてだが、パブリックコメント実施までに、もう一度会議を開催しなくてもよいか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	各委員に個別に資料を送付することを考えている。
委員長	7・8章が空欄になっている。ここを“お任せ”で良いのかということがある。
D 委員	7・8章のたたき台が見られるのであれば開催してもよいが、そうでなければ難しい。
委員長	7・8章の説明を受けてから考えましょう。
	7・8章について事務局より説明
	・エネルギー削減量推計について
	・ビジョンの推進部分の考え方について
	・質疑応答
F 委員	P D C Aを回しましょう。ということをぜひ盛り込んでもらいたい。
委員長	ここで出てくる削減可能量と、重点プロジェクトの削減量はどう違うのか。
事務局	重点プロジェクトは、プロジェクトだけで削減される数字であり、7章は全ての取り組みでの推計値となる。
委員長	2 日程調整 ・12月1日 15:00～17:00で確定
	閉会